

平成 26 年度 普通会計・特別会計 決算

飯山市の平成 26 年度普通会計および特別会計決算がまとまりました。今回はその状況をお知らせします。

普通会計とは——
一般会計、福祉企業センター特別会計、ケーブルテレビ事業特別会計をあわせたものです。

平成26年度の普通会計と特別会計を合わせた決算額は、歳入（収入）249億4956万円、歳出（支出）235億8437万円となりました。

歳入

普通会計の歳入について、市税は法人市民税の増などにより前年度比1.9割増の24億3013万円となりました。地方交付税は52億6280万円、普通交付税が前年度比4.2割の減、特別交付税は3.1割の増と

なり、あわせて3.2割の減となりました。新幹線関連整備などに伴い、市債は前年度比1.1割増の17億4730万円、基金繰入金は904.5割増の12億8399万円となりました。また、「ふるさと寄付金推進事業」の積極的な取組により、ふるさと納税額が6億円を超え、寄付金が前年度比761.6割増の6億2870万円となりました。

歳出

普通会計の歳出は、普通建設事業費が39億7140万円、前年度比9.6割の増となりました。新幹線開業年度となり、区画整理事業や駅西地区整備事業、飯山駅統合事業などの新幹線関連整備により増額となったものです。また、借入金の返済にあたる公債費は、過疎債などの返済を順調に行い前年度比13.0割減の10億5023万円となりました。物件費については前年度比30.9割増の21億242万円となりましたが、これはふるさと寄付金の特典経費の増などによるものです。維持補修費については、除雪対策事業費の増が影響し前年度比25.2割増の7億2839万円となりました。

今後とも国・県の動向や、経済状況などに注視しつつ適切な長期財政推計に基づいた節度ある財政運営に努めていきます。

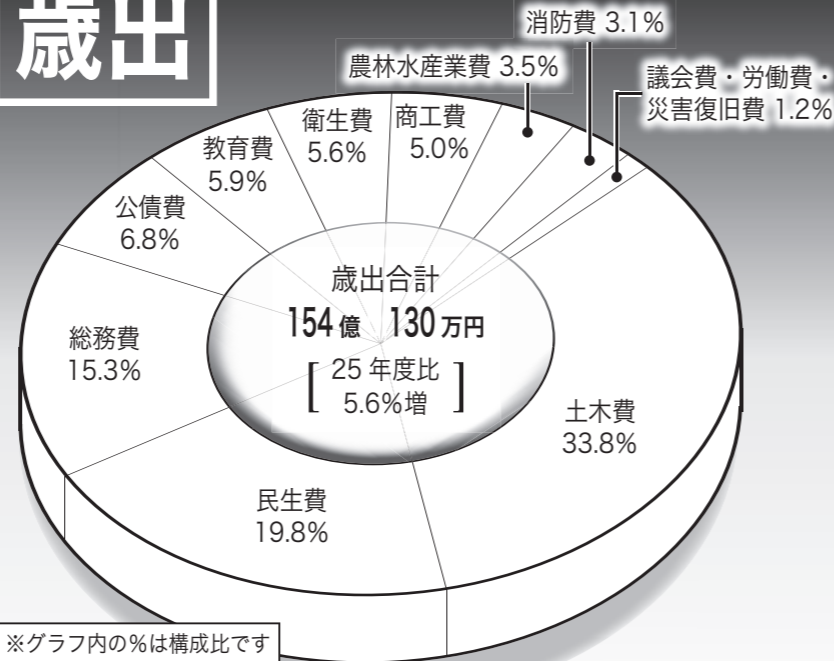
歳出の決算額（性質別歳出の状況）

区分	決算額	対前年増減
普通建設事業費	39億7,140万円	9.6%↑
物件費	21億242万円	30.9%↑
人件費	19億9,255万円	1.2%↓
繰出金	18億4,989万円	1.9%↑
補助費等	14億8,014万円	4.8%↓
扶助費	13億7,832万円	3.8%↑
公債費	10億5,023万円	13.0%↓
投資・出資金・貸付金	5億9,204万円	13.6%↓
維持補修費、その他	9億8,431万円	33.3%↑

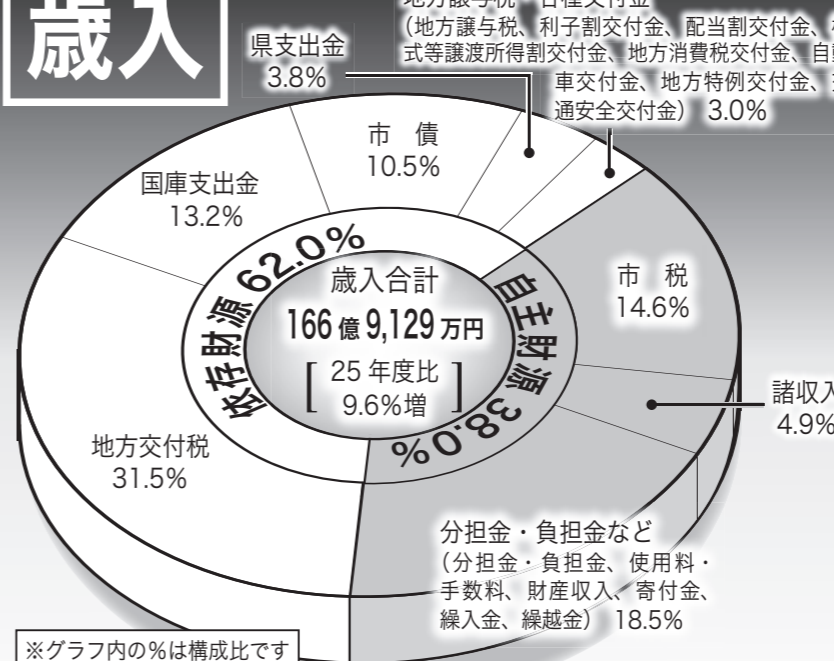
歳出の決算額（目的別歳出の状況）

区分	決算額	対前年増減
土木費	52億197万円	11.9%↑
民生費	30億4,566万円	3.4%↑
総務費	23億5,383万円	25.5%↑
公債費	10億5,023万円	13.0%↓
教育費	9億1,174万円	3.7%↓
衛生費	8億6,845万円	0.8%↓
商工費	7億6,408万円	0.9%↓
農林水産業費	5億3,683万円	0.5%↓
消防費	4億7,773万円	14.4%↓
議会費・労働費・災害復旧費	1億9,078万円	9.3%↓

歳出



歳入



歳入の決算額

区分	決算額	対前年増減
地方交付税	52億6,280万円	3.2%↓
市税	24億3,013万円	1.9%↑
国庫支出金	22億535万円	2.3%↓
市債	17億4,730万円	1.1%↑
諸収入	8億1,124万円	6.3%↓
県支出金	6億3,967万円	17.2%↑
分担金・負担金など	30億9,670万円	103.5%↑
※うち繰入金	12億8,399万円	904.5%↑
※うち寄付金	6億2,870万円	761.6%↑
地方譲与税・各種交付金	4億9,810万円	2.4%↑

市税の内訳

税目	決算額	構成比	増減率
固定資産税	11億5,790万	47.6%	1.0%↓
市民税	9億6,317万	39.6%	7.8%↑
市たばこ税	1億7,312万	7.1%	6.1%↓
軽自動車税	7,081万	2.9%	0.4%↑
都市計画税	5,563万	2.3%	1.3%↓
入湯税	950万	0.4%	1.1%↓

用語解説

〔歳入〕

- 市税：市民税や固定資産税など、市に納められた税金
- 地方交付税：所得税などの国税のうち一定の割合を、市の状況に応じて国から配分されるお金
- 諸収入：他の収入科目に含まれない収入をまとめたもの。延滞金、預金利子、宝くじ収益金などもこれにあたる
- 分担金・負担金：分担金は、市の事業により特に利益を受ける者から、その受益の限度において徴収されるもの。負担金は、地方公共団体が、他の市や住民に課するもので健康診断受診者負担金が代表的なもの
- 各種交付金：国税として国が徴収した財源を、一定の合理的基準によって地方公共団体に再配分されるお金
- 市債：市が建設事業などの財源とするための長期の借入金で、償還が一会計年度を超えるもの
- 国庫支出金：国から支出される、原則的に使途が特定されている負担金、補助金、交付金、委託金など
- 地方譲与税：国が国税として徴収し、そのまま地方公共団体に対して譲与する税

用語解説

〔歳出〕

- 土木費：道路や河川、新幹線などの整備に使われたお金
- 民生費：高齢者や障がい者、児童福祉の進などに使われたお金
- 総務費：人事管理や財産管理、企画調整や地域振興、税務事務などに使われたお金
- 公債費：これまでに公共事業などで借り入れたお金の返済に使われたお金
- 教育費：小中学校の管理運営や施設整備、および生涯学習の推進などに使われたお金
- 商工費：商業や観光の振興および企業の誘致などに使われたお金
- 衛生費：ごみの処理や健康増進事業などに使われたお金
- 農林水産業費：農業、林業、畜産などの振興に使われたお金
- 消防費：消防団の運営や常備消防の維持など、消防活動や救急活動に使われたお金
- 議会費：議会運営に使われたお金
- 労働費：労働行政に使われたお金
- 災害復旧費：災害復旧のために使われたお金

平成 26 年度 特別会計決算

特別会計とは――

一般会計とは別に設けられ、独立した経理管理が行なわれる会計のことです。

特別会計名	歳入	歳出	差引残額
公共下水道事業	8億3,561万円	8億2,917万円	644万円
特定環境保全公共下水道事業	3億6,052万円	3億5,571万円	481万円
農業集落排水事業	3億3,266万円	3億2,787万円	479万円
簡易水道等	1億7,586万円	1億7,349万円	237万円
国民健康保険	26億7,819万円	26億5,917万円	1,902万円
介護サービス事業	861万円	788万円	73万円
介護保険	27億4,986万円	27億1,383万円	3,603万円
後期高齢者医療	2億3,856万円	2億3,757万円	99万円

・いずれも普通会計に算入していないものです。
・1万円未満四捨五入により端数処理してあります。
・下水道事業特別会計は16ページでお知らせしています。

平成 26 年度決算に基づく 健全化判断比率など

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、飯山市の健全化判断比率（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4指標の総称）と、公営企業の資金不足比率を公表します。

健全化判断比率には、「早期健全化基準」と「財政再生基準」があり、4指標のうち各基準を1つでも上回ると「早期健全化団体」、「財政再生団体」へと移行し、財政健全化計画の策定などが義務付けられています。

【健全化判断比率】

指標	25年度	26年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	13.83%	20.00%
連結実質赤字比率	—	—	18.83%	30.00%
実質公債費比率	13.1%	11.9%	25.0%	35.0%
将来負担比率	58.5%	81.0%	350.0%	—

実質赤字比率、連結実質赤字比率

実質赤字額がないため(黒字のため)「—」で表示しています。

実質公債費比率、将来負担比率

前年に比べ実質公債費比率は1.2ポイント低下、将来負担比率は22.5ポイント上昇しました。変動の要因として、実質公債費比率では過疎債などの地方債償還額が減少した事、将来負担比率では地方債の現在高が増加した事が挙げられます。

普通会計地方債残高は、過疎対策事業の本格化に伴う新たな過疎債の借入れ等により平成26年度は98億2,578万円となり、平成25年度の85億989万円と比較すると13億1,589万円増加しています。

【資金不足比率】

決算において資金不足を生じた公営企業がないため該当ありません。「資金不足比率」は各公営企業の資金不足額が、事業規模に対してどの程度あるかを示す数値で、基準値を超えると「経営健全化計画」を定める必要があります。

健全化判断基準とは・・・

実質赤字比率・・・

一般会計などを対象とした実質赤字額が標準財政規模に対する比率です。

連結実質赤字比率・・・

全会計を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率です。

実質公債費比率・・・

地方公共団体の収入に対する借金返済額の比率を示すもので、普通会計の公債費に下水道特別会計や水道事業会計などへの繰出金(公債費相当)と岳北広域等への分担金(公債費相当)を加算し、財政負担の度合いを判断するものです。18%を超えると地方債発行について国や県の許可が必要となります。

将来負担比率・・・

地方公共団体の一般会計などの借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担などの残高を現時点で指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す比率です。350%を超えると健全化計画を策定し、財政の健全化を図らなければなりません。

土木費

- 区画整理・新幹線駅周辺整備・関連事業など (29億6,288万円)
- 飯山ぶらざ(仮称)建設事業(7億3,230万円)
- 道路新設・改良事業(1億9,039万円)
- 都市計画道路静間線整備事業(3億3,504万円)
- 除雪対策費・除雪機械整備(6億5,186万円)
- 協働のみちづくり事業(2,219万円)
- 市営住宅整備事業(2,276万円)
- 移住定住推進事業(1,707万円)

衛生費

- 各種検査、予防接種など(1億445万円)
- 環境・ごみ減量・再資源化推進(270万円)
- 岳北広域行政組合衛生関係運営負担金 (3億4,961万円)
- リサイクル推進事業(2,738万円)
- 地域中核医療機関支援事業(1億6,311万円)

民生費

- 介護・訓練等給付事業(3億8,208万円)
- 児童手当給付事業(3億918万円)
- 後期高齢者医療市町村負担事業(2億6,913万円)
- 保育所運営事業(2億2,643万円)
- 医療給付事業(1億1,573万円)
- 臨時福祉給付金等給付(9,192万円)
- 老人施設入所措置事業(6,427万円)
- 飯山市社会福祉協議会補助(2,907万円)
- 高齢者生きがい対策事業(2,589万円)

教育費

- 小学校施設リニューアル整備事業(1,588万円)
- 中学校スクールバス運行事業(1,405万円)
- 学力向上総合対策事業(953万円)
- スポーツ・ジュニアスポーツ振興(1,868万円)
- 冬期学校スポーツ振興事業(290万円)
- 小中学校等図書館図書整備(897万円)
- 小中学校コンピューター整備事業(331万円)

平成 26 年度
普通会計決算

主な使い道

特徴的な事業、生活に身近な事業
(1万円未満四捨五入)

総務費

- 新幹線開業PR推進事業(3,602万円)
- 公共交通運行事業(6,464万円)
- 区長行政事務委託事業(1,884万円)
- 選挙執行事業(5,187万円)
- ふるさと寄付金推進事業 (5億7,918万円)
- コミュニティ助成事業(1,250万円)
- 輝く地域づくり支援事業(305万円)
- 地域おこし協力隊事業(235万円)

消防費

- 消防団の運営経費(7,028万円)
- 消防防災施設整備、管理(4,352万円)
- 災害対策・防災減災対策(534万円)

商工費

- 広域観光推進事業(4,900万円)
- 本町アーケード整備事業(4,182万円)
- 信州いいやま観光局運営事業(4,000万円)
- 観光施設整備、管理(1,602万円)
- 斑尾高原トイレ整備事業(997万円)
- 誘客宣伝観光振興事業(862万円)
- インバウンド推進事業(244万円)
- 企業誘致対策(190万円)

農林水産業費

- 中山間地域等直接支払い事業(8,293万円)
- 農村多面的機能支払交付金事業(1,653万円)
- 新規就農総合支援事業(614万円)
- 菜の花の里づくり事業(498万円)
- 協働のみちづくり事業(688万円)
- 協働のもりづくり事業(93万円)
- みゆきポーク生産振興対策事業(360万円)
- 元気な農業づくり支援事業(194万円)

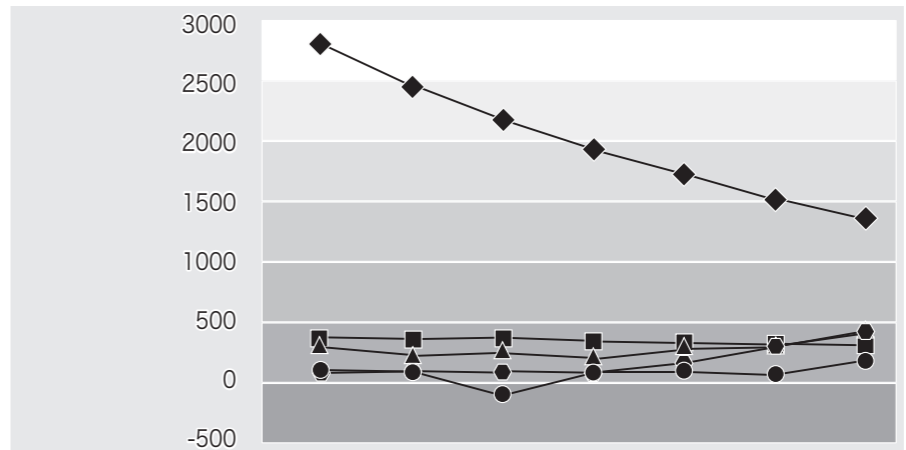


上水道事業の経営状況（決算）をお知らせします

安全・安心でおいしい水の安定的な供給を

水道事業は、地方公営企業として常に経済性を発揮しながら、計画的に事業を実施しております。ここ数年配水池からの配水量に対して料金として回収される水量の割合(有収率)の低下が見られます。漏水が主な原因と考えられることから、引き続き漏水箇所特定と修理を行い有収率の向上を図り、経営の改善に努めます。今後も「安全・安心でおいしい水の安定的な供給」をいたしますので、市営水道へのご理解とご協力をお願いします。

◆平成20年度から平成26年度までの経営状況（単位：100万円・税抜き）




	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
◆ 企業債(借入金)元金残高	2,840	2,495	2,213	1,957	1,711	1,513	1,416
■ 給水収益(水道使用料)	439	430	437	419	416	400	394
▲ 流動資産額(現金預金等)	325	241	282	238	324	373	488
● 建設改良費支出額	43	66	74	57	188	314	421
● 純利益	64	55	-56	55	61	43	127

※新たな会計基準の適用の影響により純利益は増加しますが、償却資産の取得に係る補助金等の収益化に伴い増加する利益は現金収入を伴わない会計上の利益であり、経営を資金面で好転させるものではありません。

- 企業債(借入金)元金残高は、近年の繰上償還により平成20年度に比べおおむね半分にになりました。
- 給水収益(水道使用料)は、人口減少および節水意識の向上などにより年々減少しています。
- 流動資産額(現金預金等)は、前年度より1億円ほど増加となりました。(将来の工事等のために備えるものです。)
- 建設改良費は、山岸水源水道施設整備および中央橋架替関連工事などにより、前年度に引き続き大幅な増加となりました。
- 純利益は、会計制度の見直しにより大幅な増加となりましたが、旧会計制度の基準に照らし合わせると、ほぼ前年度並みとなります。

お水だんしゃくのワンポイントアドバイス

長期ご不在時には水道の閉栓(休止)の手続きを



お仕事やご家庭の都合で長期間ご自宅を離れる場合は、漏水などの予期しないトラブルを防ぐため、また、閉栓することで基本料金が不要となります。

水道開栓、閉栓の手続きは上下水道課窓口で行っています。印鑑および手数料(1000円)をお持ちのうえ、開栓、閉栓希望日の2～3日前までにお越しください。

平成26年度 上水道事業の給水状況

年度末の給水戸数	6,495戸
内 家 庭	5,850戸
事業所・工場	543戸
官公署・団体他	102戸
年度末の給水人口	1万6,955人
年間の総配水量	247万501m ³
1カ月の平均配水量	20万5,875m ³
年間の有収水量	183万7,919m ³
1カ月の平均有収水量	15万3,160m ³
有 収 率	74.4%

有収水量：水道料金請求の対象となった水量

一般財団法人農林統計協会普及部 ☎03-3492-2987
農林課 農業振興係 ☎03-3492-2663

新農家暦・農業日誌の販売について

例年あつせんを行ってまいりました「新農家暦・農業日誌」につきましては、本年度から発行元へ直接注文(送料、代金の振込手数料は注文者負担)、または書店へ直接注文(送料、振込手数料はかかりません)していただくことになりました。ご希望される方は下記連絡先または最寄りの書店よりご

注文いただきますようお願いいたします。

■販売内容(各1冊)
新農家暦 520円
農業日誌 1500円
ファミリイ日誌 1500円

■発行元
一般財団法人農林統計協会 普及部
〒03-3492-2987
〒03-3492-2942
FAX 03-3492-2942

高齢者へのインフルエンザの予防接種助成

保健福祉課 健康増進係 ☎62-3111 内線187

インフルエンザの予防接種を希望される方は、12月中旬までに接種することが効果的とされています。

- 対象者 市内在住の方
 - ①接種日現在65歳以上の方
 - ②60歳以上65歳未満の方で心臓、腎臓、呼吸器等に重い病気のある方(身体障害者手帳1級程度)
- 実施期間 平成28年3月31日まで
- 申込方法 医療機関に直接お申し込みください。
- 接種費用 1,000円(1人1回に限る)
(生活保護世帯は、自己負担が免除)



委託予定医療機関

飯山赤十字病院	62-4195	北信州診療所	65-1200
服部医院	62-2816	小田切医院	62-2039
片塩医院	62-2136	みゆき会クリニック	63-2560
畑山医院	67-2888	戸狩診療所	65-3995
清水医院	62-2351	いいやま診療所	67-0100

市外・県外で接種を希望する方はお問い合わせください。

企画財政課 企画調整係 ☎03-3111 内線3992

宝くじの助成金で

祭り用具を整備しました

宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源に実施している「コミュニティ助成事業」を活用し、大塚区(常盤地区)が祭り用具を整備しました。この事業は、宝くじの社会貢献広報事業の一環として、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を目的に行われています。



常盤地区 大塚区
— 大小の太鼓とのぼりポールの整備

常盤地区 下水沢区
— お神輿の修繕、旗竿の整備

秋津地区 飯駒区
— 提灯、電気わた菓子機、発電機、灯光器、のぼりポールの整備



チキンカツ定食 @500円

話題の役所めし!! ワンコインランチ
期間限定 11月13日(金)まで (定休日:土日祝)
飯山市役所5階 食堂 ふじ味 店長 藤澤
TEL: (090)7801-7971 メール:enkai@fujimi.pw

